

実践者向けWS実施報告

■実施概要

実践者と考える2050年の「環境首都・SAPPORO（仮）」

日 時：平成28年8月30日（火）13:30～16:30

会 場：札幌市環境プラザ 研修室1・2

主 催：EPO北海道 共催：札幌市環境局

協 力：札幌市環境プラザ（指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会）
株式会社KITABA

参加者：23名 公募により参加者を募集

13:30 開会、あいさつ【5分】

13:05 情報提供【25分】

「札幌市環境基本計画と札幌市の環境」

14:00 ワークショップ①【60分】

1) アイスブレイク・自己紹介（30分）

参加のきっかけ、34年前に気になった出来事、2050年のイメージ

2) ～「環境首都・SAPPORO（仮）」が目指す将来像とは？～（30分）

テーマごとに2050年にどのようなまちになっているか意見交換

意見交換を行ったテーマ

①低炭素なまち

②エネルギーを有効利用のまち

③循環型のまち

④自然と共生したまち

15:00 ワークショップ②【50分】

～将来像の実現に向けた取り組み内容とは？～

15:50 休憩【10分】

16:00 意見交換の振り返り【30分】

各テーブルで応援したい取組についてシール投票

テーブルごとで出された意見の発表

他のテーブルで応援したい取組についてシール投票

第10次札幌市環境審議会大沼委員からの講評

16:30 閉会

第10次札幌市環境審議会大沼委員からの講評

4つのテーマの中で「低炭素のまち」と「エネルギー有効活用のまち」はよく似ているため出てくるキーワードが被ると予想していました。意外にも「循環型のまち」でも「コンパクトシティ」や「交通体系」が2つのテーマと共通のキーワードとして出てきていました。

モビリティを「動」とするなら、「静」は住宅や生活として2番目に多く出てきたキーワードでした。「自然と共生したまち」は、意見の数は少ないが、重要な議論はされていました。教育・対話・話し合いは「自然と共生したまち」にもでてきていました。

「循環型のまち」にできていた「ごほうび」を実現するためにも環境実践者の方々と関わりを持ち、札幌市は様々な方と対話を続けるべきです。そのための仕組みづくりとして、「低炭素なまち」や「自然と共生したまち」にもあったように、研究機関や政策提言ができる組織をつくること、それが全体をとおして見えてきたことでした。

■実施状況（写真）



テーマ①低炭素なまちのテーブルで出された意見

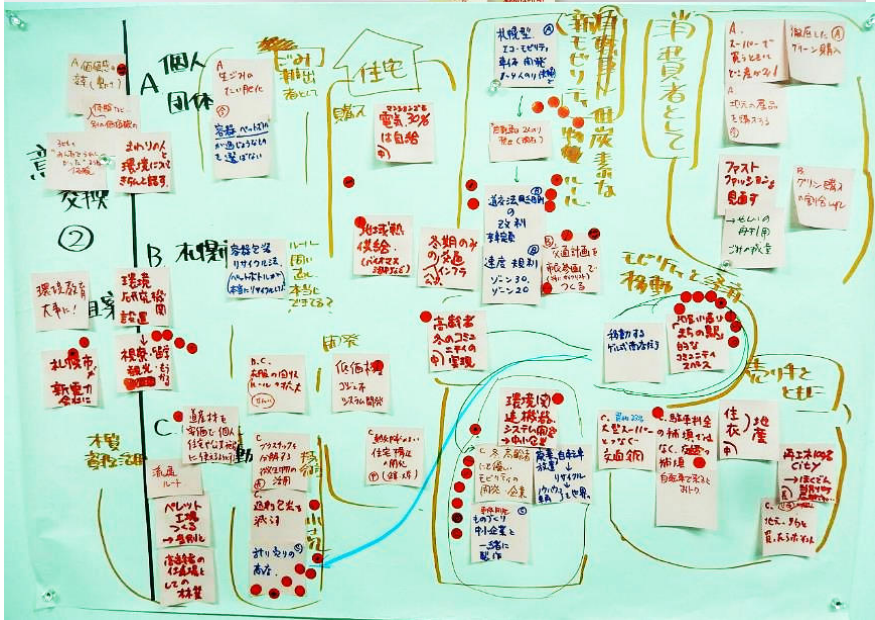
■意見交換①～「環境首都・SAPPORO（仮）」が目指す将来像とは？～

テーマのイメージで主にされた意見は、「炭素を少なくするための技術開発」、「自転車など既存ものの活用」、「新しいモビリティの登場」、「まちづくりとの連携」、「エネルギーの見える化」など。取組案では、「環境研究機関の設置」、「視察・研究・観光・留学による経済循環によって環境がさらに良くなるための取り組みへの投資」、「低炭素なモビリティなどが新しくできたときにルール作りやモビリティと経済の連携を考える必要」が意見として出されていた。また、市との連携として、「移動式のコミュニティスペース」ができるとよいという意見がだされていた。



■「環境首都・SAPPORO（仮）」が目指す将来像 ※<>内は補足説明

- 二酸化炭素排出量の見える化
 - ・スマートメーターで低炭素なまちをコントロールできている
 - ・使用料がリアルタイムでわかる。(各家庭のスマホなどで管理できている)
- 再生可能エネルギーの導入により化石燃料を使わないまち
 - ・暖房の化石燃料の使用がほぼない、再生可能な自然エネルギーで冬を越せる(風力、地熱など)
 - ・地中熱や自然エネルギーを用いた冷暖房都市
- エコな自動車
 - ・ガソリン車は使わないエコ・モビリティ都市
 - ・ガソリンを使わない自動車の導入
- 車の制限
 - ・市街地の車流入制限(往來が安全)→休日の中心部の渋滞がなくなる。
 - ・冬場の渋滞によるCO2排出対策<渋滞(CO2発生源となる)を防ぐために交差点等の重点的な除雪>
- 公共交通の充実
 - ・地下鉄駅からのモビリティの結合の充実(コミュニティバス)
 - ・バリアフリーな公共交通・住宅
 - ・移動によるバリアがない
 - ・高齢者が移動しやすい環境、速度規制
- 配送・輸送エネルギーの減少
 - ・地産地消の取組の推進→自給率を上げることで、運ぶときのエネルギーの減少
 - ・牛肉を食べる量を減らす。(水をととても使うので)
 - ・ラストワンマイル配送<集積所から配送先までの物流>の転換
 - <例>配送時の集積所からの輸送ルールを確立する
- 林業・コミュニティ
 - ・北海道の林業を活かしたコミュニティが増える
 - ・林業資源を仕事リタイア後の生きがいづくりに活用していく(下川町の例のような)
- ごみの減量
 - ・布製品のリサイクル循環
 - ・ごみは燃やさない、埋め立てない。減らして再利用をする
- エネルギー効率のよい住宅
 - ・エネルギー効率のよい住宅の普及
 - ・冷暖房効率のよい住宅の普及
 - ・暖房を必要としない住居
 - ・無暖房住宅とエネルギーパスポート
- 自転車のまち
 - ・自転車で移動できる
 - ・自転車が行きやすい街並み・道路がある→車に乗る人は減るはず
 - ・夏は自転車、冬は新モビリティの生活
 - ・車ありきでない道のあり方
 - ・自転車専用道路。今の自転車道路の有効活用。
 - ・自転車に乗る際のルールが周知されている。
- まちづくり
 - ・環境施策が観光資源につながるまちづくりを行う
 - ・道路建物の緑化を行い、CO2を吸収する
 - ・車道の削減。
 - ・地下街はすべて低炭素社会になっている→例)チカホがつながっていく。そこも低炭素になっている
 - 地下街だけでもローカーボンになっている>
 - ・公共施設はすべて自然エネルギーのまち
 - ・CO2が発生しない都心のまちづくり
 - ・木陰と鳥の声のまち
 - ・地域の人たちで作っていく庭を作る
 - ・コミュニティガーデンのように生活と生物・食が繋がってる。



テーマ①低炭素なまちのテーブルで出された意見

■意見交換②～将来像の実現に向けた取り組み内容とは？～ ※ () は、参加者による投票シール数（テーブル内での投票数：他のテーブルの方による投票数）

| | 短期：今すぐできること | 中期：10～20年かかること | 長期：34年かかること |
|------------------|--|--|---|
| A.個人/団体 | <ul style="list-style-type: none"> ○モビリティ・移動の取組(4:0) <ul style="list-style-type: none"> ・札幌型エコ・モビリティ車体開発。(1～4人乗り・夫婦対象) →<現在は>自転車の2人乗り禁止<○交通の仕組みを変えると連携> ○価値観の変革 <ul style="list-style-type: none"> ・別の価値観を体験できる機会の創出 →例) 子供の「みんなでうれしかった」ような体験を共有する場 ・周りの人と環境についてきちんと話す ○消費者の意識変革 <ul style="list-style-type: none"> ・産地の確認・徹底したグリーン購入により地元の製品の購入 ・ファストファッションを見直す →繊維の再利用、ごみの減量 ○ごみの取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・個人・団体での生ごみのたい肥化。 ・容器・ペットボトルが過剰なものは選ばない。 | <ul style="list-style-type: none"> ○住宅性能の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・各マンションが電気の30%を自給 | |
| B.札幌市との協働 | <ul style="list-style-type: none"> ○エネルギーの取組 <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市が新電力会社に ・地域熱供給の推進(バイオマス活用など)(0:1) ○交通の仕組み <ul style="list-style-type: none"> ・冬期のための公共交通インフラ ○地産地消を政策に <ul style="list-style-type: none"> ・グリーン購入の割合を向上 ・地産小売り「まちの駅」的なコミュニティスペースの創出(3:5) ・移動するゲル式商店街 ○研究・開発の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・環境研究機関を設置→視察、留学、観光で儲かる ・環境教育を大事にする ・低価格コジエネシステム開発(0:1) ○ごみの取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・容器包装リサイクル法(ペットボトルが本当にリサイクルしている) | <ul style="list-style-type: none"> ○交通の仕組みを変える <ul style="list-style-type: none"> ・道路交通法の乗車定員の改正(グループ内2枚、グループ外3枚) <自転車の2人乗り禁止を改正するなど自転車の有効活用ができるような法律へ> ・速度規則(ゾーン30、ゾーン20など) ・交通計画を市民参画でつくる(特にサイクリスト)(0:3) ○コミュニティの課題への寄与 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者コミュニティの実現(1:0) | |
| C.〇〇と協働 | <ul style="list-style-type: none"> ○技術開発 <ul style="list-style-type: none"> ・環境関連機器、システム開発→中小企業(1:0) ・冬、高齢者にも優しいモビリティの開発(1:2) ・車体開発やものづくりを中小企業と一緒に制作する(1:2) ・廃棄、放棄自転車をリサイクルし、ノウハウと車両を世界へ。 ・買い物弱者と大型スーパーをつなぐ交通網 ○売り手の取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・自家用車以外で来た場合、駐車料金ではなく交通費を補填する(自転車で来るとお得など)。(1:1) ・地元で物を買ったらポイント進呈(小売店) ○木材利用・林業 <ul style="list-style-type: none"> ・道産材を安価で個人住宅や公共施設に使えるようにする。 ・ペレット工場を作る(当別町と協働)←流通ルートの確立 ・高齢者の仕事場としての林業の推進 ○ごみの取組 <ul style="list-style-type: none"> ・過剰包装を減らす(0:1) ・量り売りの商店を増やす(2:5)<ここでいう量り売りとは、無駄な容器を減らすために、容器を持参して物品の購入をすること(イメージとしては昔の豆腐屋さん。ボールを持参して、そこに必要な量の豆腐を入れて | <ul style="list-style-type: none"> ○技術開発の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・熱効率のよい住宅構造の開発(企業・大学と協働) ○地産地消の取組の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・衣類と住居の地産地消 | <ul style="list-style-type: none"> ○エネルギーの仕組みの確立 <ul style="list-style-type: none"> ・再エネ100%city(ほくでん、当別町、石狩市と協働) ○技術開発 <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックを分解する微生物の活用 |

テーマ②エネルギー有効活用のまちのテーブルで出された意見

■意見交換①～「環境首都・SAPPORO（仮）」が目指す将来像とは？～

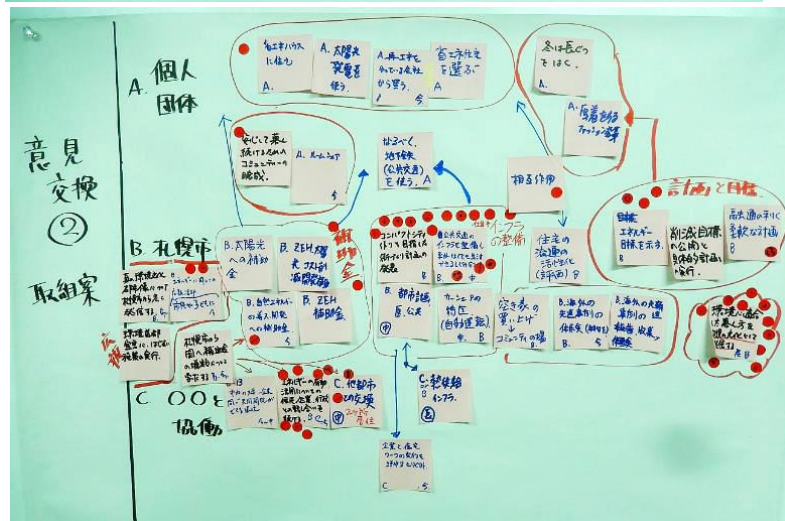
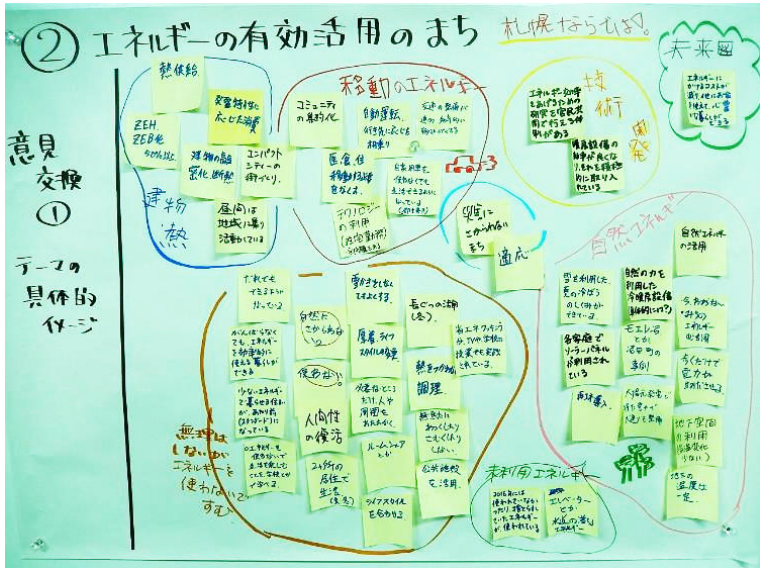
概略

「札幌市ならではの！」をコンセプトを置いたテーマのイメージで主に出された意見は、「建物や熱」「移動のエネルギー」「エネルギーを使わないで済む方法」「自然エネルギーや未利用エネルギー利用」など。よく「省エネ活動は疲れる」と聞くことがありますが、「頑張りなくてもできる」「車を使わない」「家で仕事をしる」など移動しない生活もできるのではと多種多様な考えが出てきた。

取組案は、「仕組みやインフラの整備」「カーシェア」「自動車の自動運転」「特許の申請」「公共交通の一環の整備」「住民・企業・行政と話し合いの継続」「エネルギー目標の設定」「削減目標と具体的な計画の提示」「環境分野は変化が激しいため柔軟な計画づくり」などの意見がありました。

札幌市や他団体との協働の取組として、冬の札幌には住まずに他の都市と家を交換し合うという極論も出ました。全体をととして「自然や災害にさかわらない」が重要であると考えました。

■ワークショップの模造紙



■「環境首都・SAPPORO（仮）」が目指す将来像 ※<>内は補足説明

○未来像

- ・エネルギーにかかるコストが減り、他にお金を使えて心豊かな暮らしができる

○建物の性能の向上（特に熱の有効活用）

- ・地域熱供給
- ・ZEH・ZEB化が50%以上になっている
- ・<エネルギーの自給率など>発電特性に応じた消費
- ・建物の高気密化・断熱等が進んでいる
- ・コンパクトシティのまちづくりになっている
- ・昼間は地域に集まり活動している

○移動にかかるエネルギーの減少

- ・コミュニティが集約化している
- ・自動運転になっている
- ・行き先に応じた相乗りができる
- ・医・食・住において、移動するをなくす
- ・交通の整備が進み効率的に移動ができる
- ・自家用車を使わなくても生活できるようになっている（都市部）
- ・テクノロジーの利用（在宅勤務）※問題もある <問題とは、勤務先との合意形成が必要なこと、コミュニティや連絡調整の観点から問題が別途あるということ>

○技術開発の推進

- ・エネルギー効率をあげるための研究を官民共同で行える体制がある
- ・暖房設備の効率が良くなり、それを積極的に取り入れている

○自然災害に対する適応

- ・災害にさかわらないまち

○無理はしないが、エネルギーを使わないで済む

- ・がんばらなくても誰でもエネルギーを効率的に使える暮らしができる
- ・少ないエネルギーで暮らせる住まいがあたり前（スタンダード）になっている
- ・エネルギーを使わないで生活を楽しむことを学校等で学べる
- ・自然に逆らわないライフスタイルを実現する
- ・エネルギーを無駄に使わない
- ・人間性の復活<自然との共存により、従来人間関係や地域関係を取り戻すということ>
- ・2か所の居住で生活（夏・冬）
- ・雪かきをしなくてもよくなる
- ・厚着・ライフスタイルを変える（冬は長ぐつをきちんと履くなど）<北海道は冬のライフスタイルに、暖房を使用しながらアイスを食べることがある。室内でも厚着をすること、除雪の際には長靴を履くことでエネルギーの削減につながる>
- ・必要などころだけ人や周囲を暖かく

（ルームシェア、公共施設でのウォームシェア・クールシェア）

- ・<日中に活動をして、夜は寝るなど自然の動きに>ライフスタイルを合わせる
- ・無駄に暑くしたり寒くしたりしない
- ・熱を使わない調理の実践
- ・省エネクッキングがTVや学校の授業でも実践されている

○自然エネルギーの活用

- ・雪を利用した夏の冷房のしくみができている
- ・各家庭でソーラーパネルが利用されている
- ・自然の力を利用した冷暖房設備（モエシ沼とか沼田町の事例のような）
- ・太陽光発電で得た動力で大通<公園内の照明などに使えるよう>を整備
- ・今わからない未知のエネルギーの活用
- ・歩くだけで電力が生みだされる
- ・地下空間の利用（地下の温度はほぼ一定であり、気温変化が少ない）

○未利用エネルギー

- ・2016年には使われていなかったり、捨てられていたエネルギーが使われている（エレベーターや水道の落ちるエネルギー等）

テーマ①エネルギー有効活用のまちのテーブルで出された意見

■意見交換②～将来像の実現に向けた取り組み内容とは？～ ※ () は、参加者による投票シール数（テーブル内での投票数：他のテーブルの方による投票数）

| | 短期：今すぐできること | 中期：10～20年かかること | 長期：34年かかること |
|------------------|---|---|---|
| A.個人/団体 | <ul style="list-style-type: none"> ○省エネ、再エネに意識した住宅の推進（1：0） <ul style="list-style-type: none"> ・省エネハウスに住む、太陽光発電を使う ・再エネをやっている会社から買う（今） ・省エネ住宅を選ぶ ○安心して暮らし続けるためのコミュニティの醸成（1：0） <ul style="list-style-type: none"> ・ルームシェア ○気温・気象に合わせた暮らし方の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・冬は長くつをはく、厚着をする・ファッション変革 ○環境負荷の少ない乗り物の選択 <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく地下鉄（公共交通）を使う | | |
| B.札幌市との協働 | <ul style="list-style-type: none"> ○広報・発信 <ul style="list-style-type: none"> ・真の環境文化都市像について札幌市から広く発信する ・エネルギーに関して市民や子どもに広報活動（1：1） ・環境首都宣言に恥じない施策の実行 ○補助金の取組（2：0） <ul style="list-style-type: none"> ・自然エネルギー（太陽光等）への補助金 ・ZEH・太陽光・コスト削減開発補助金 ・補助金要請 ・話し合いの場づくり ・共同開発の環境づくりにおける補助金 ○インフラの整備（5：6） <ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトシティづくりを目指した街づくり計画の発表 ・公共交通のインフラを整備し車がなくても生活できる仕組みをつくる（0：3） ○計画と目標（2：1） <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー目標を示す ・削減目標の公開と具体的計画の実行 ・融通の利く柔軟な計画（0：1） ○住宅への取組 <ul style="list-style-type: none"> ・空き家の買い上げ→コミュニティの場づくり ・住宅の流通の活性化（1：0） ○先進地の情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ・海外の先進事例の収集・体 ・住宅の流通の活性化（評価） 相互作用<古い住宅は改装することで十分に活用が可能、その際省エネルギー住宅へ改装することで地域のエネルギー節約につながる。省エネルギー住宅への評価の仕組みがあることで相互作用が生まれる> | <ul style="list-style-type: none"> ○インフラの整備 <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画、医、公共<高齢者の利用率が高い、医療や公共施設ではエネルギー使用量も多いため、都市計画の段階からコンパクトシティとして集約することで、エネルギーの節約につながる> ・カーシェアの特区（自動運転）<将来車は1人1台は不要となると仮定して、自動運転ができる車が走る特区の制定とその車をシェアすること> | <ul style="list-style-type: none"> ○発信 <ul style="list-style-type: none"> ・環境に適合した暮らし方を札幌の文化として発信する（1：9） |
| C.〇〇と協働 | <ul style="list-style-type: none"> ○働き方の変革 <ul style="list-style-type: none"> ・企業と在宅ワークの契約を増やす取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ○他都市との交換（2か所居住）（0：3） | <ul style="list-style-type: none"> ○インフラの整備 <ul style="list-style-type: none"> ・熱供給インフラ |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>市内の大学・企業間で共同開発ができる環境づくり</p> </div> | | |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>エネルギー有効活用についての住民、企業、行政との話し合いを続ける（3：3）</p> </div> | | |

テーマ③循環型のまちのテーブルで出された意見

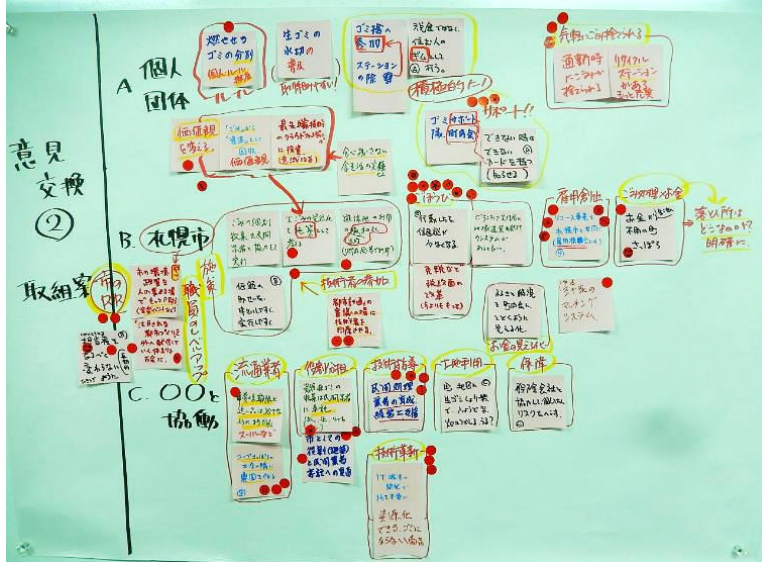
■意見交換①～「環境首都・SAPPORO（仮）」が目指す将来像とは？～

概略

テーマのイメージで主に出された意見は、「リサイクル率50%以上」、「世代を超え長期間再利用」、「土地の有効活用 市街地の中に畑ができる」、「水も1次利用や2次利用が進む」、「ごみ捨ては気軽に、いつでも捨てられるようなまち」、「災害時のごみやトイレも話題になっているので整備される」、「高齢者や弱者のごみ捨てに対してサポートの充実したまち」など。

取り組み案は「ごみ出しのサポート」「ITの活用による紙媒体の減少」「ごみにならない商品の開発」「環境活動のPR」などができました。特に、札幌市に期待する「ごほうび」は、「まじめに分別すると住民税の減税」「ボランティアでごみ拾いをすると地域通貨の発行」という意見がありました。

■ワークショップの模造紙



■「環境首都・SAPPORO（仮）」が目指す将来像 ※<>内は補足説明

- まち全体として
 - ・廃棄物が半減している
- 市民が共有し、大切にしているイメージ
 - ・どの角度からみても絵になるまち
 - ・清潔なイメージのまち
- 地域エネルギーの自給
 - ・朝のまち・昼のまち・夜のまちはっきりしている<朝はいろんな形でごみ回収、昼は太陽光でエネルギーを供給など時間ごとにエコの特徴があるまち>
 - ・エネルギーをみんなでつくってみんなで使うまち
 - ・個人レベルでの風力や水力発電が盛ん
- 土地の有効利用
 - ・公園・遊休地にて野菜作りし、地域で販売している
 - ・市街地や学校に畑がある
 - ・生ごみをたい肥として循環させ、地産地消（家庭、地域）が進んでいる
 - ・雪氷利用が冷房だけに留まらなくなる
- 災害時のごみ・トイレ
 - ・他町村の連携強化災害時
- 手続的な循環
 - ・身近にある当たり前の医療・民間・行政・病院<各手続きが一貫して、無駄がなくなること>
- 水の一次利用、二次利用が進む
 - ・どこでもきれいな水が出て、使用後もすぐ流せる
 - ・汚水の再利用ができるようになっている
- 食品ごみの削減
 - ・完全栄養食がでてごみが減る
 - ・食品廃棄物ゼロ（動物）
- リユース 世代を超えた利用（長期間）
 - ・ペットボトルがなくなる
 - ・人の流れがとまらない（ぐるぐるぐるぐる<人材の循環>）
 - ・子ども服をペットの服にリメイクするお店が増える
 - ・生活用品を再利用するシステムができる、リユースが常識（世代交換）（家、物など）
 - ・必要な時に必要なものが交換できたり取り出せるまち
 - ・建物の循環利用
 - ・発泡スチロールがなくなる（代わりに優れた素材が開発される）
- 「<モビリティ>の所有」から、みんなで使える「機能のシェア！」へ（市民の足が充実、移動のエネルギーが減）
 - ・何でも使い放題でもモラルをもってせこくない活用すること
 - ・燃料電池エネルギーで車もシェア（カーシェアリング）
 - ・クリーンカーが1家庭1台
- リサイクルの進化
 - ・リサイクル率50%以上資源化
 - ・ごみは資源化しエネルギー利用（各区にて）
 - ・美容室から出るごみ（毛髪）を有効利用する何か生まれる
 - ・生産者としても服やかばんなどの地産地消などの視点を持つことが重要
- コミュニティ単位でのごみの取組
 - ・人の集まる場にはリサイクルスペース、ごみ出し、情報端末など循環する仕組みをつくる
 - ・コミュニティでごみ処理一体化
 - ・地域をコンパクトにする
 - ・コミュニティを強化し、子どもの見守りも行なう
 - ・健常者、障がい者という枠ではない共同の場（コミュニティ）づくり
- ごみ捨てのサポート体制
 - ・社会的弱者となる可能性のある高齢者、子ども、障がい者に対するごみ捨てのサポート
 - ・高齢化社会への対応として、高齢化社会のごみ捨てサポート
- 気軽にごみが捨てられる
 - ・ごみすての日を決めなくても回せる住みやすさ
 - ・買い物時にごみ出しできる
- 役割分担の見直し
 - ・資源化ごみ収集を行政から民間事業者へ移行することで、環境ビジネスを創出
 - ・高齢化に伴い、高齢者の雇用の場として活用する

テーマ③循環型のまちのテーブルで出された意見

■意見交換②～将来像の実現に向けた取り組み内容とは？～ ※ ○ は、参加者による投票シール数（テーブル内での投票数：他のテーブルの方による投票数）

| | 短期：今すぐできること | 中期：10～20年かかること | 長期：34年かかること |
|------------------|---|---|---|
| A.個人/団体 | <ul style="list-style-type: none"> ○個人ルールの徹底（1：0） <ul style="list-style-type: none"> ・燃やせるごみの分別 ・生ごみの水切の普及（取り組みやすい） ○市民による積極的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ・税金ではなくて住む人の義務として行う ・ごみ拾いへの参加、ステーションの除雪・参加 ○ごみのサポート体制の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ごみサポート隊、町内会 ・ごみ捨てができない時はできないカードを持つ（知らせる） ○気軽にゴミ捨てられる（2：1） <ul style="list-style-type: none"> ・通勤時にゴミが捨てられる・現状より充実したリサイクルステーションがある ○ライフスタイル・価値観の変更（0：1） <ul style="list-style-type: none"> ・食べ残さない食生活の実践 ・価値観を変える（1：0） ・「ごみ」から「資源」として回収 ・最先端技術についてクラウドファンディングに投資（意識改革） <p><一人ひとりが環境に配慮した技術へ出資すること></p> | | |
| B.札幌市との協働 | <ul style="list-style-type: none"> ○施策への反映（1：0） <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの個別収集を民間業者と協力して実行 ・生ごみの資源化を施策として考える（1：0） ・遊休地の利用の法的緩和化（町内会等で利用）（0：1） ・低額の助成を申請・実行しやすくする ○技術者の参加 <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画の審議の場に技術者を同席させる場（0：2） ○ごほうび（2：6） <ul style="list-style-type: none"> ・行動したら、住民税が少なくなる ・ボランティア実施者に地域通貨を発行のシステムがあると良い ・免税など税制面の改革（今よりもっと） ○ごみ処理×お金（1：1） <ul style="list-style-type: none"> ・<物々交換などにより>お金が生活に不用の町さっぽろ →落とすところはどこなのか？明確に ○お金の見える化 <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税を町内会に届くように見える化<例えば、町内会の廃品回収などの取り組みを推奨するために使う> ○空き家対策 <ul style="list-style-type: none"> ・中古空き家のマッチングシステム（1枚内） ○職員のレベルアップ 市のPR（2枚内） <ul style="list-style-type: none"> ・市の環境政策を人の集まる場でもっとPRする（音楽イベントなど） ・「注目される都市づくり」を外へ配信していく体制を万全に（0：2） | <ul style="list-style-type: none"> ○雇用創出（1：4） <ul style="list-style-type: none"> ・リユース事業を札幌市と協働で（雇用機会にも） | <ul style="list-style-type: none"> ○職員のレベルアップ <ul style="list-style-type: none"> ・理解している担当者をなるべく変わらないように（0：2） |
| C.〇〇と協働 | <ul style="list-style-type: none"> ○流通業者 <ul style="list-style-type: none"> ・スーパー等で賞味期限に使い品は捨てないように利用する（0：1） ○役割分担 <ul style="list-style-type: none"> ・資源化ごみの収集は民間業者に委託（紙、缶などを含む）（0：1） ・市としての役割（施策）と民間業者委託への見直し（2：1） ○技術指導 <ul style="list-style-type: none"> ・民間処理業者育成 ・経営上支援（1：3） ○技術革新（2：1） <ul style="list-style-type: none"> ・IT端末の開発で紙を不要に ・資源化できるごみにならない商品の開発 ○土地利用 <ul style="list-style-type: none"> ・町・地区に生ごみ処理器で腐葉土など畑に使える、売る？ <例えば、市や町内会が企業に販売> | <ul style="list-style-type: none"> ○流通業者 <ul style="list-style-type: none"> ・コープさっぽろのお店の隣に農園を作る（1：1） | <ul style="list-style-type: none"> ○保障 <ul style="list-style-type: none"> ・保険会社と協力して、個人負担リスクを減らす<ごみ拾いなどの環境活動に対する取り組みの保険を保険会社に負担していただく> |

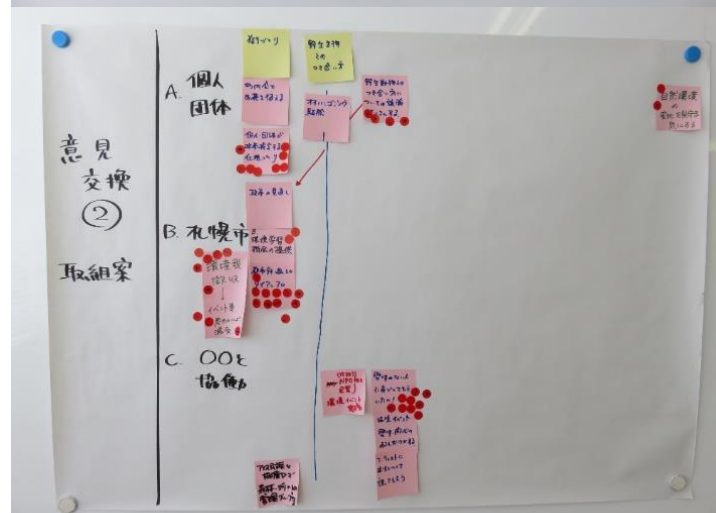
テーマ④自然と共生したまちのテーブルで出された意見

■意見交換①～「環境首都・SAPPORO（仮）」が目指す将来像とは？～

概略

テーマのイメージで主に出された意見は、「まちづくりと連携した生物も住みやすい環境づくり」、「野生動物との付き合い方を考える」、「自然に対する市民理解の促進」「自然に触れるようなライフスタイルの変化」、「自然を使った産業と利活用」、「自然の管理・整備に必要なお金が寄付で賄われる」、「市民自身が自然保全、公園管理ができている状態」など。

取り組み案は、イメージ一番上の「街づくり」に関連したことで「議論の大切さ」、「政策の見直しや都市計画とタイアップ」、「行政にお任せするのではなく、市民による政策提言の仕組みづくり」、「環境イベントに参加することによるインセンティブで理解者の拡大」、「環境の取り組みを有名人にお話ししてもらう」、協働の仕組みづくりとして「環境と関連がなさそうな分野に入れてもらう」などの意見が出されていた。全体を通して「2050年という長期的な視点で自然環境の変化を見守ること、気に続けることが大事な視点である」ということが共通理解で出てきていた。



■「環境首都・SAPPORO（仮）」が目指す将来像 ※<>内は補足説明

○まちづくりでの自然への配慮

- ・ごみが少ない。
- ・街中に自転車道がある<自転車道や歩くスキーコースを作ることで、化石燃料に頼らない移動ができる自然に配慮した街になっている>
- ・街中に畑。
- ・街中にも緑がいっぱい
- ・市街地の緑被率が<国内で>ナンバーワンになっている
- ・円山動物園が大通公園近くまで伸びる
- ・郷土種が街路樹に使われている
- ・街路樹が道産の樹木になる。
- ・土の復活（必要以上に舗装しない）
- ・緑比率が向上している

○市民意識の向上

- ・自然に対する市民の理解が進んでいる
- ・人づくりが成功。みんな環境保全への意識が当たり前

○野生動物との付き合い方

- ・豊平川をはじめ、各川に野生の鮭が大量に遡上する環境づくり
- ・蛍が見られるくらい水がきれい
- ・鹿がいっぱいいる⇔野生動物と住み分け、まちで熊とは出会わない
- ・みんなで外来種であるオオハシゴウソウを駆除しており、まちから消えている
- ・交通網が生物生息域を分断しない
- ・札幌の自然を把握する

○ライフスタイル

- ・子どもが近所の川や森で遊ぶ
- ・市民（大人）も森や川で遊ぶ
- ・チセの復活
- ・森でブドウを採ってもいい
- <地元の人が地元の森で自然の恵みをいただいて楽しめるような生活ができるイメージ>

○利活用

- ・住民が積極的に自然を守る
- ・森林公園を市民の手で管理している
- ・森林は全てアイヌ民族が管理する。FSC認証<受けている>
- ・藻岩山の管理・整備に必要なお金は寄付で賄われている

○産業

- ・いつでもスーパーで鹿肉が買える
- ・山菜・魚など自然の恵みで産業化
- ・まち全体が観光スポットとして、多くの人が道外から訪れる
- ・自然に関するお祭り・イベントが多く開催されている

テーマ④自然と共生したまちのテーブルで出された意見

■意見交換②～将来像の実現に向けた取り組み内容とは？～ ※○は、参加者による投票シール数（テーブル内での投票数：他のテーブルの方による投票数）

| | 短期：今すぐできること | 中期：10～20年かかること | 長期：34年かかること |
|------------------|--|---|--|
| A.個人/団体 | <ul style="list-style-type: none"> ○まちづくりに関連する取組 ・町内会でお花を植える。 ・個人・団体が政策提言する仕組みづくり。(6:2) | <ul style="list-style-type: none"> ○野生動物との付き合い方 ・オオハンゴウソウを駆除。 ・野生動物との付き合い方についての議論をたくさんする。(0:4) | <ul style="list-style-type: none"> ○環境への意識醸成 ・自然環境の変化を見守る、気にする |
| B.札幌市との協働 | <ul style="list-style-type: none"> ○推進力のある政策への見直し ・環境学習機会の提供。(2:0) ・都市計画とのタイアップ。(3:8) ・環境税徴収→イベント等の参加により減免。(3:6) | | |
| C.〇〇と協働 | <ul style="list-style-type: none"> ○アイヌ民族との協働の推進 ・アイヌ民族と協働で森林・河川の管理グループをつくる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○環境イベントのさらなる推進 ・行政・NPO・企業・その他で、環境イベントや環境教育。 ○興味のない人に気づいてもらう仕掛けづくり ・環境のイベントには興味・関心のある人だけが来るので、アーティストに環境について歌ってもらう。(4:5) | |